

**平成 1 6 年度実施
高等専門学校機関別認証評価
(試行的評価) 評価報告書**

金沢工業高等専門学校

平成 1 7 年 2 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

認証評価結果

独立行政法人大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている。

対象校の現況及び特徴（対象校から提出された自己評価書から転載）

1 現況

- (1) 対象校名 金沢工業高等専門学校
- (2) 所在地 石川県金沢市久安2丁目270番地
- (3) 学科等構成
 - 電気情報工学科（定員45名）
（平成15年4月1日 電気工学科を名称変更）
 - 機械工学科（定員45名）
 - 国際コミュニケーション情報工学科（定員45名）
（平成15年4月1日新設）
- (4) 学生数及び教員数(平成16年5月1日現在)
 - 1) 学生数（名）

学科 学年	電気工学科		電気 情報 工学科	機 械 工学科	国際コミュニ ケーション 情報工 学 科	合 計
	電気電子 工学コース	情報工学 コース				
1年	1 (1)		50 (1)	53	38 (8)	142(10)
2年	3		52 (1)	55 (1)	34 (7)	144(9)
3年	39 (3)	43 (3)	-	46 (2)	-	128(8)
4年	39	41 (7)	-	40	-	120(7)
5年	36 (1)	39 (6)	-	48 (1)	-	123(8)
合計	241 (21)		102 (2)	242 (4)	72 (15)	657(42)

()内は女子数で内数

2) 教員数（名）

	教授	助教授	講師	助手	合計
電気情報 工学科	5	2	2	0	9
機 械 工 学 科	7	1	0	0	8
国際コミュニケーション 情報工学科	5	4	1	0	10
一 般 科 目	7	7	8	0	22
合計	24	14	11	0	49

2 特徴

金沢工業高等専門学校（以下本校）は、昭和37年に創立され、学校法人金沢工業大学（以下学園）が設置する金沢工業大学（以下大学）と共に、学園が目指す工学アカデミア実現の一翼を担って理念を共有し、5か年間一貫の制度を活用した特色ある教育の実現に努力しています。

本校の最も特徴的な点は、大学との理念の共有と学園が運営する教育及び研究の支援組織を大学と共用し、充実した教育研究環境で学生が学べる点にあります。また卒業後の進路として、大学への編入学に関しても、推薦制度の中で毎年20名を超える学生が金沢工業大学へ進学する等、密接な連携による運営が行われています。

本校の教育面の特色は「ハンズオン教育」と「英語教育」にあります。

「ハンズオン教育」は、学園がその歴史の中で、一貫して目指してきた現場技術者の養成を目的とするモノづくりを基本とした教育であり、学生の創造性を引き出す教育として今日改めて注目されています。

「英語教育」は、技術現場の国際化への対応の必要から力を注いできたものです。今日単位互換による海外留学制度の実現や海外の大学への編入学等の大きな特色となり、平成15年4月に新設された国際コミュニケーション情報工学科は、こうした本校の特色をより進化させたものと言えます。

本校は、多年にわたって培ってきた先の二つの特色の他、現在資格取得教育にも力を注いでいます。本校卒業生が社会に出て、その実力をいかんなく発揮するチャンスをつかむためには、単に学歴だけでなく、現場技術者として資格を持つことの重要性を認識しているからです。

本校は、学園の理念である「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」の三大旗標のもと、「人間形成」を教育の根本理念として豊かな人間性の涵養をすべての教育のベースに置くことを教員に求めています。本校が創立以来実施している穴水湾自然学苑教育は、本校の人間教育を象徴する必須の科目として定着しており、卒業生たちの学年をこえた共通の思い出として語られています。

対象校の目的（対象校から提出された自己評価書から転載）

（１）理念

本校は、学園が定める建学の綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

「三大建学綱領」

人間形成：我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成する。

技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成する。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献する。

（２）学園共同体の理解

理念の実現に向けて、学園の理事、教職員は、次のことを理解することが強く求められています。

- 1)工学アカデミアとは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が学園共同体の一員として行動する際、意思決定の根拠をなす価値群である“K I T - I D E A L S”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場である。
- 2)教育とは、学生が持つ潜在能力を引き出して総合的に伸ばしていくことにある。すなわち、学生の「知性、感性、徳性」を涵養することである。教育付加価値とは、本校における学習や経験全般から獲得した知識や技能だけでなく、価値観や態度を包含する総合的な「人間力」である。
- 3)学園の活動は、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）や企業、保護者、社会等の要求に応える「サービス」を成熟させ、その卓越性を追究することである。

（３）「学園共同体が共有する価値」に基づく信条

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“K I T - I D E A L S”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより、学園共同体の向上、発展を目指します。

K : Kindness of Heart (思いやりの心)	私たちは素直、感謝、謙虚の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I : Intellectual Curiosity (知的好奇心)	私たちは情熱、自信、信念を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T : Team Spirit (共同と共創の精神)	私たちは主体性、独創性、柔軟性を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I : Integrity (誠実)	私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D : Diligence (勤勉)	私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E : Energy (活力)	私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A : Autonomy (自律)	私たちは、自律することを大切にし、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
L : Leadership (リーダーシップ)	私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。
S : Self-Realization (自己実現)	私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

(出典 イーグルブック 工学アカデミアの実現をめざして 抜粋)

(4) 教育の実践目標

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における次の5つの活動を通じて、その実現を目指すものです。

- 1) 「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じて“K I T - I D E A L S”に基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- 2) 21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。
- 3) エンジニアとして必要な知識や技能に係る専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- 4) 地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- 5) 学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものと考えています。

- ・学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。
- ・学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。
- ・学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、学生、教職員の一致した努力のもと、その取組を実施しているものです。

基準ごとの評価結果

基準 1 高等専門学校の目的

- 1-1. 高等専門学校の目的(高等専門学校の使命,教育活動等を行うに当たっての基本的な方針,教育目標等基本的な成果として達成しようとしている内容など)が明確に定められており,その内容が,学校教育法に規定された,高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものでないこと。
- 1-2. 目的が,学校の構成員に周知されているとともに,社会に公表されていること。

【評価結果】

基準 1 を満たしている

【根拠・理由】

当校では,学校法人として大学と当校を一体とした「工学アカデミア」構想を掲げるとともに,当校の教育実践目標として,「21 世紀を担う,心豊かで,創造性にあふれたエンジニアの育成」を挙げ,その実現を目指すために,5 か年間にわたる教育課程や課外における 5 つの活動を挙げており,目的は具体的かつ明確に定められている。その内容は,学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

これらの目的は,教職員向けのイーグルブック(建学綱領や学校の実践目標等を掲載した小冊子),学生便覧,ウェブサイトなどに明記されており,ポスターを構内に掲示するなどして,教職員及び学生に対して周知されている。また,ウェブサイトへ掲載するとともに,県内を中心とした中学生に教育実践目標等を掲載した入学案内などを配布することにより,社会に対して広く公表されている。

以上のとおり,学校の目的の内容,学校の構成員に対する周知の状況,及び社会への公表の状況を総合的に判断すると,「基準 1 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 目的については,教職員向けのイーグルブック,学生便覧,ウェブサイト等への掲載や,ポスターを構内に掲示するなど,複数の方法により積極的に学内への周知が図られており,教職員及び学生の認知度が高い。

【改善を要する点】

特になし

基準2 教育組織（実施体制）

- 2-1. 学校の教育に係る基本的な組織構成（学科及び専攻科）が、目的に照らして適切なものであること。
2-2. 教育活動等を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

【評価結果】

基準2を満たしている

【根拠・理由】

学科は、機械工学科、平成15年度の学科改組により名称変更された電気情報工学科及び同年に設置された国際コミュニケーション情報工学科からなり、教育の目的に沿って体系的に編成されている。さらに、学校法人に教育・研究活動を支援するための組織として、教育支援機構および研究支援機構が置かれ、その下に各種センターが設置されている。ライブラリーセンターは、文献の検索など学生の積極的な情報収集の場や、少人数授業における教室として利用されるほか、デジタル技術を活用するものづくりの場としての機能も有している。情報処理サービスセンターは情報機器の環境整備や管理運営等を行っている。自己開発センターは資格取得教育の支援や相談・講習会等を実施している。工学設計教育センター（夢考房）は授業及び課外において様々なものづくりに取り組む現場として活用されている。工学基礎教育センターは数理教育に関する学習支援のノウハウなど情報提供等の役割を担っている。さらに、穴水湾自然学苑は、当校が掲げる「人間力」を養うプログラムである「人間と自然」の科目を実践する教育の場として活用されている。これらの諸施設は教育目的を達成する上で適切であり、併設の大学と共用の施設であることから、高度で充実した環境として整備されている。

教育課程全体を企画・調整する体制として、学校全体の教育課程については学務会議、細部については教務委員会が整備されており、機能している。一般科目と専門科目の教員の連携については、学務会議や教務委員会で組織的に検討され、機能的に行われている。当校の専属事務職員は少数であるが、管理運営、施設・設備等については法人本部が業務を担当し、教育支援機構が教育活動についての支援を行っており、教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

以上のとおり、学科等の構成、及び教育活動等を展開する上で必要な運営体制の状況を総合的に判断すると、「基準2を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 学校法人に教育支援機構及び研究支援機構が置かれ、ライブラリーセンター、情報処理サービスセンター、自己開発センター、工学設計教育センター（夢考房）、工学基礎教育センター、穴水湾自然学苑等の教育関連施設を設置し、これらは併設大学の教育にも利用される高度な施設であり、教育目的を達成する上で充実した環境が整備されている。

【改善を要する点】

特になし

<p>基準 3 教員</p> <p>3-1. 教育課程を遂行するために必要な教員等が適切に配置されていること。</p> <p>3-2. 教員の採用及び昇格等に当たって、適切な基準が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。</p> <p>3-3. 教員等の教育活動を評価し、改善するための体制が整備され、機能していること。</p>
--

【評価結果】

基準 3 を満たしている

【根拠・理由】

一部の専門科目については、より専門的な教員の補充が必要な状況にあるが、一般科目及び専門科目を担当するために適切な教員の配置が行われており、特に、英語に関する教員が充実している。教員の年齢構成には一部不均衡が見られることから、若手教員の採用を推進している。また、教員に対する学位取得や留学を含むキャリアアップのための支援など、教員組織の活動を活性化するための適切な措置が講じられている。

教員の採用基準や昇格基準は、教員任用基準及び教員昇任基準として定められ、適切な運用がなされている。

教員の教育活動に関する定期的な評価としては、各教員による教育の抱負及び実施に関する報告書の提出、それに基づく校長の評価、校長との面談、各教員の次年度の計画立案に関する教育改善への取組と今年度の目標の作成、学生の授業アンケートの実施などを行っており、校長が教員の活動を把握・評価し、その指導力の下に質の向上を図るシステムが整備され、機能している。

以上のとおり、教員の配置状況、教員の採用及び昇格の方法、及び教員の教育活動を評価する体制の状況を総合的に判断すると、「基準 3 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 学生数に比して英語教員、特にネイティブ・スピーカーの配置が充実しており、当校が教育の実践目標として掲げている「『英語教育』のさらなる向上」に向けて、15 人程度の少人数による英語教育を可能とする教員組織体制が構築されている。

【改善を要する点】

特になし

基準 4 学生の受入

- 4-1. 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針が記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、公表されていること。
- 4-2. 入学者の選抜が、アドミッション・ポリシーに沿って適切な方法で実施され、機能していること。
- 4-3. 実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

【評価結果】

基準 4 を満たしている

【根拠・理由】

アドミッション・ポリシーとして、募集要項に出願資格や選考方法を明記しているほか、「教育の実践目標」を明確に定め、「本校の教育に共感し、自己実現の意欲を継続できる人材」を求める姿勢が示されている。これは、「入学試験の面接に係る申合せ」に明記され、教職員に周知されており、受験生募集のための教職員による中学校訪問説明や、受験を希望する中学生が当校へ体験入学する際に説明することにより、社会に公表されている。

入学者選抜試験は一般学力選抜と推薦選抜があり、それぞれ基礎学力試験と面接を実施している。面接における留意事項や質問例等を「入学試験の面接に係る申合せ」で詳細に定め、本人の志望動機等を確認するなど、アドミッション・ポリシーに沿って適切な方法で実施されるように工夫されている。アドミッション・ポリシーに沿った学生受入が実際に行われているかどうかの検証については、現状では十分行われているとはいえない。

機械工学科及び電気情報工学科の2学科については、入学定員の管理が適性に行われているが、平成15年度に新設された国際コミュニケーション情報工学科で、2年間入学定員を充足していない状況にある。このことから、広報誌「Speak up」の作成・配布や、中学校への出張授業の実施などの対策を行っているが、活動の効果が顕著に現れるまでには至っていない。

以上のとおり、アドミッション・ポリシーの策定状況、入学者選抜の状況、及び実入学者数と入学定員との比較状況を総合的に判断すると、「基準4を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 機械工学科及び電気情報工学科の2学科については、教育目標や教育内容が中学生及び中学校に対して十分に浸透されており、明確な志望動機に基づく入学者の確保につながっている。
- ・ 入学者選抜に当たって、推薦選抜及び一般学力選抜ともに面接を実施しており、「入学試験の面接に係る申合せ」に基づき、教職員の合意形成が図られた入学者選抜が行われている。

【改善を要する点】

- ・ アドミッション・ポリシーに沿った学生受入が実際に行われているかどうかの検証については、現状では十分行われているとはいえない。

基準 5 教育内容及び方法

< 準学士課程 >

- 5-1. 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。
- 5-2. 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。
- 5-3. 成績評価や単位認定、進級・卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。
- 5-4. 人間の素養の涵養に関する取組が適切に行われていること。

< 専攻科課程 >

- 5-5. 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。
- 5-6. 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。
- 5-7. 研究指導が教育の目的に照らして適切に行われていること。
- 5-8. 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

当該校では、専攻科課程が未設置のため、5-5 から 5-8 は評価対象外である。

【評価結果】

基準 5 を満たしている

【根拠・理由】

授業科目は、学年ごとに教育実践目標にあわせ適切に配置され、内容も体系的に整備されている。特に、「創造実験」が 1～5 年次までカリキュラムに組み込まれ、工夫が見られる。授業の内容は、教育実践目標を達成するために適切に計画されており、全体として教育課程編成の趣旨に沿ったものとなっている。また、学生が十分に活用しているとはいえないものの、授業科目についてのシラバスの記述内容は適切なものになっている。

各授業科目において必要に応じて講義と演習を組み合わせているほか、英語教育や創造教育における少人数教育が実施され、各授業科目の授業形態がその目標を十分実現できるように工夫されている。また、情報機器の利用など、教育内容に応じて学生の授業への意欲の増進を図るよう工夫されている。創造性を育む教育方法としては、「創造実験」（「ハンズオン教育」）が一般科目と専門科目の連携を図りつつ低学年から体系的に構成されており、4 年次に行うインターンシップは、ほとんどの学生が参加し、企業現場を経験する場として活用されている。

成績評価や進級、卒業認定に関する基準としての規程が定められ学生便覧に掲載されているとともに、各科目の成績評価方法はシラバスに明記されている。これらは、入学式後のオリエンテーションなどで説明し、学生に周知されている。単位認定、進級、卒業認定は基準に従って学務会議で審議されており、成績評価はシラバスに記載された評価方法に従って、適切に実施されている。

教育目標の一つである「人間力の養成」のため、特別活動は 1～5 年次に週 1 回行われている。学校独自の特別活動行事として、「穴水湾自然学苑教育」が企画されており、教育課程の編成において、人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。また、学生の生活面での指導は学級担任が、課外活動面での指導はクラブ担当顧問教員が中心になって行っており、これらの指導を通して、人間の素養の涵養が図られている。

以上のとおり、教育課程の編成状況、その内容及び水準、授業形態、学習指導法等、及び成績評価や卒業認定等の状況を総合的に判断すると、「基準 5 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーションを重視した，15人程度の少人数による英語（基礎）教育を1～3年次に実施しているほかに，国際コミュニケーション情報工学科では，ネイティブ・スピーカーと日本人教員による情報科目を1年次に実施するなど，充実した英語教員によって，当校が掲げている「英語教育の推進」という教育目標に沿った授業展開がなされている。
- ・ 5年間を通じて配置された「創造実験」が，一般科目と専門科目の連携を図りつつ低学年から体系的に構成され，当校が掲げる「ハンズオン教育」の柱の授業科目として，学生自ら考え発想し，ものづくりを体験する場となっている。
- ・ 併設大学と共用の施設である穴水湾自然学苑の積極的な利用により，1，3，5年次で，特別活動行事としての「穴水湾自然学苑教育」を実施し，人間の素養の涵養がなされる教育を実践している。

【改善を要する点】

特になし

<p>基準 6 教育の成果</p>

<p>6-1. 教育の目的において意図している、学生に身につけさせる学力、資質・能力や養成する人材像に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。</p>
--

【評価結果】

基準 6 を満たしている

【根拠・理由】

単位取得、進級・卒業の状況、就職・進学状況、資格取得の状況、卒業論文の内容・水準から判断して、教育の実績や効果が上がっている。当校では学生による学習達成度評価が行われていないが、授業満足度評価が行われており、その結果によれば、おおむね高い満足度を示しているものの、一般科目に比して専門科目で満足度が低い傾向を示している。学生の授業評価は最近実施されたばかりであり、授業内容や方法の改善、学生の意欲喚起に係る方策など、具体的な計画が立てられるまでには至っていない。また、学生の就職先や企業実習先、過去5年間の卒業生などに対するアンケートの実施により、卒業生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組が実施されており、教育の効果が上がっている。

以上のとおり、教育の目的において意図している、学生に身につけさせる学力、資質・能力等に照らした教育の成果や効果を総合的に判断すると、「基準 6 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 例年、卒業生の就職率(就職者数/就職希望者数)が極めて高い水準を保っている。
- ・ 教職員、過去5年間の卒業生、学生の就職先や企業実習先に対するアンケートを実施し、教育の成果や効果が上がっているかどうかを判定することのできる仕組みができている。

【改善を要する点】

- ・ 学生による学習達成度評価が実施されていないため、学生に対する学校の意図する教育の効果が上がっているかどうかを十分に把握しきれていない。
- ・ 学生の授業評価が最近実施されたばかりであり、授業内容や方法の改善、学生の意欲喚起に係る方策など、具体的な計画が立てられるまでには至っていない。

基準 7 学生支援

- 7-1. 学習を進める上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制が整備され，機能していること。また，学生の課外活動に対する支援体制等が整備され，機能していること。
- 7-2. 学生の生活や経済面並びに就職等に関する相談・助言，支援体制が整備され，機能していること。

【評価結果】

基準 7 を満たしている

【根拠・理由】

学生に対する学習を進めるためのガイダンスは，学級担任や授業科目担当教員を中心として行う体制が整備されており，学生に周知する内容等の共通化を図るなど，適切に実施されている。学生に対する自主的学習を進めるための相談・助言体制としては，シラバスにオフィスアワーの設定がなされているが，それ以外の時間であっても随時，学級担任を中心として，授業科目担当教員，部活動顧問などが相談・助言に応じているほか，補習授業，特別講座も実施し，機能している。学生の自主的学習環境及びキャンパス生活環境については，高専ラウンジ，コンピュータ演習室などの当校独自の施設のほか，ライブラリーセンター，マルチメディア考房，工学設計教育センターなどの併設大学との共用施設があり，充実した環境が整備され，全般的によく活用されている。各種の資格試験受験のための特別講座の開講や，外国留学のための国際交流委員会等による支援などの支援体制が機能している。特に，学生が休学せずに留学できる方策を採用しており，実際の外国留学や留学希望者の実績がかなりの数となっている。このほか，編入学生に対しては，補習授業を行うなど個別の学習支援が行われている。学生の組織的活動については，3年生までの全学生の部活動参加，教員の積極的な部活動顧問担当のほかに，学外コーチの参加など，支援体制の整備に努力しており，機能している。

学生の生活面に関しては，学級担任や学生主事，学生係が担当となり指導・相談・助言を行っており，カウンセラーを配置した心の相談室の設置や，さらには，保護者と年2回の懇談など，指導・相談・助言体制が整備されており，機能している。経済面での相談・助言は事務局が担当する体制が整備されており，機能している。現在のところ，生活面で特別な支援が必要な者は在学していないが，障害を持つ学生に対する施設のバリアフリー化は行われていない。当校では自宅通学生が多く，学生寮が置かれていないため，管理人との連絡体制が整っている学校近郊の下宿やアパートを斡旋し，学生との連絡を密にするなどの対応が取られている。進路指導体制については，進路指導主事を中心に整備されており，進路に関する学生ガイダンス，企業訪問による就職開拓及び情報収集，就職に関する個別の学生指導，企業からの学校訪問の対応，進学希望者に対する受験指導，保護者等への進路指導などを，きめ細かく実施しており，機能している。

以上のとおり，学習支援体制，課外活動に対する支援体制，及び生活や経済面並びに就職等に関する支援体制を総合的に判断すると，「基準 7 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 海外の高等教育機関への留学等については，5週間の短期海外英語研修の制度があるほか，1年間の留学プログラムを設けており，学生が休学せずに5年間の修業年限内で卒業することのできる制度を発足させ，留学希望者や外国留学実績もかなりの数となっている。
- ・ 質，量，スペースともに充実したライブラリーセンター（図書館）を午後10時まで開館するほか，マルチメディア考房，工学設計教育センターなどが活発に利用され，充実した自主的学習環境が整備されている。
- ・ ライブラリーセンターに，専門科目教員をサブジェクトライブラリアンとして配置し，学生に対するライブラリーセンターを用いた情報入手や研究，教育上の情報利用の啓蒙など，学生の自主的学習の支援を行っている。

- ・ 進路指導主事を中心とした進路指導体制の下に，進路に関する学生ガイダンス，企業訪問による就職開拓及び情報収集，就職に関する個別の学生指導，企業からの学校訪問の対応，進学希望者に対する受験指導，保護者等への進路指導など，様々なきめ細かい進路指導を実施している。

【改善を要する点】

特になし

基準 8 施設・設備

- 8-1. 教育課程に対応して施設，設備が整備され，有効に活用されていること。
8-2. 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備されていること。

【評価結果】

基準 8 を満たしている

【根拠・理由】

当校の校舎内には，教室，研究室，実験・実習室，コンピュータ演習室等が，別棟には，創造実験用の演習室がそれぞれ整備されているほか，併設大学と共用する運動場，体育館，語学学習用の教室，ライブラリーセンター（図書館），機械実習施設，合宿研修施設等が整備されており，有効に活用されている。情報ネットワークについては，コンピュータ演習室，マルチメディア演習室，多目的実験室 I（無線 LAN），各研究室・実験室等に学内ネットワークを整備しており，授業や課外において有効に活用されている。また，情報セキュリティに関しては併設大学と共通のセキュリティポリシーの下に運営されており，学生に対する情報リテラシー教育と情報倫理教育を実施している。

ライブラリーセンター（図書館）は，併設大学と共用する多くの図書，学術雑誌，視聴覚資料等が整備され，充実したものとなっているとともに，当校の学生に対しても専用の英語図書コーナーが設けられるなどの配慮がなされており，学生の活用度は高く，有効に活用されている。

以上のとおり，施設，設備の整備・活用状況，及び図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料の整備状況を総合的に判断すると，「基準 8 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 教育課程の実現のために，ライブラリーセンターや機械実習施設などの高度な施設・設備を併設大学と共用しており，充実した環境が整備されている。

【改善を要する点】

特になし

<p>基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>9-1. 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。</p> <p>9-2. 教員の資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。</p>

【評価結果】

基準 9 を満たしている

【根拠・理由】

各教員から教育の抱負及び実施に関する報告書が提出され、それに基づく校長の評価が行われているほか、校長と教員の面談、各教員の次年度の計画立案に関する教育改善への取組と今年度の目標の作成など、教育実践目標を念頭に置きつつ、教育の状況について評価を適切に実施できる体制が整備され、機能しているとともに、これらの結果を各教員の次年度の計画立案に結び付けるなど、教育の質の向上、改善に結び付けるシステムとなっており、具体的かつ継続的な方策が講じられている。さらには、平成 15 年度からは、KTC 教育評価委員会（KTC：Kanazawa Technical College）により総合アンケート及び授業アンケートが実施され、学生、教職員、卒業生等の意見集約を行っており、その結果についての報告書が発行されているが、これらのアンケートは実施されたばかりであり、これらの結果が具体的な教育への改善に反映されるまでには至っていない。このほか、当校は「ハンズオン教育」に力を入れ、これを研究する視点で研究活動が推進されており、教員の研究成果が教育へ還元されている例が創造技術教育として取りまとめられているなど、研究活動が教育の質の改善に寄与している。

ファカルティ・ディベロップメントについては、教育方法や授業改善の事例発表を行う教育成果発表会を毎年実施しているほか、学校法人主催のFD研修会に教員が参加し、授業におけるプレゼンテーション方法等を学ぶ機会を持たせるなど、組織として実施されている。この教育成果発表会は、単なる事例発表の場にとどまらず、教育・研究の情報共有の場として、さらには、授業改善のための検討の場として機能しており、教員個々人の取組は報告集（教育改善への取組と今年度の目標）としてまとめられるなど、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

以上のとおり、教育の状況に関する点検・評価及びその結果に基づく改善の状況、及び教員の資質の向上を図るための取組の状況を総合的に判断すると、「基準 9 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

- ・ 教育の抱負及び実施に関する報告書の提出、校長の評価、校長と教員の面談、教育改善への取組と今年度の目標の作成、授業アンケートの実施など、教育実践目標を念頭に置いた自己点検・評価が行われ、次年度の計画立案に結び付けており、授業改善に向けた組織全体の取組が行われている。

【改善を要する点】

- ・ 教育の質の向上や改善を図るための授業アンケート結果で得られた、低学年よりも高学年における学生の授業に対する満足度が低いことについての原因の分析が、現状では十分に行われておらず、具体的な改善計画に結び付くまでには至っていない。

基準 10 財務

- 10-1. 学校の目的を達成するために、教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。
- 10-2. 学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に関する計画等が策定され、履行されていること。

【評価結果】

基準 10 を満たしている

【根拠・理由】

当校の目的に沿った教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な財政基盤として校地・校舎・設備等の資産を有するとともに、学生生徒納付金、寄附金収入、手数料等の諸収入ほか、学校法人から学校運営に必要な経費を受けるなど経常的な収入が確保されている。また、学校法人に置かれる教育支援機構の協力を得て科学研究費補助金、企業からの外部資金の受入実績も見られる。

予算編成における財務に関する計画として建学の精神の具現化など教育活動等に関する基本政策及び主な事業については、評議員会の審議を経て、学校法人理事会で決定し、学内報で教職員に明示され、学内関係部署に対して適切に予算配分されている。

以上のとおり、学校の財務基盤の保有状況、及び収支に関する計画の履行状況を総合的に判断すると、「基準 10 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

特になし

【改善を要する点】

特になし

<p>基準 1 1 管理運営</p> <p>11-1. 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。</p> <p>11-2. 学校の目的を達成するために、外部の有識者の意見が適切に学校運営に反映されていること。</p> <p>11-3. 教育及び研究，組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていること。</p>
--

【評価結果】

基準 1 1 を満たしている

【根拠・理由】

当校の校長は、学校法人の理事として理事会の意思決定に参画するとともに、当校の教学に関して理事長からの権限委譲を受けており、教育目的を達成するための効果的な意思決定を行える態勢となっている。校長の補佐体制は、教務主事、学生主事、進路指導主事、研究主事、学科長及び事務局長から構成され、校長の指示によりそれぞれの校務を分担しており、機能している。学校の管理運営のための組織は学校法人全体として効率的な人員配置の下に構築されており、管理部門を法人本部で、教育及び研究部門を教育支援機構と研究支援機構で、教学部門を併設大学と当校に区分し、それぞれが学校の目的を達成するために適切な機能を果たしている。これら管理運営に関する規程は管理規則によって定められ、これに基づき諸規程が整備されている。

学校法人理事会に諮問機関として理事長及び外部有識者による十年委員会が組織され、学校法人の教育・研究・経営全般にわたる将来計画や状況の点検・評価が行われ、外部有識者の意見が適切な形で当校の管理運営に反映されている。

十年委員会及びその専門委員会である K T C 教育評価委員会は、当校を含めた学校法人全体の現状や改革の方針等の報告や、それに対する評価、討議、意見の陳述等を行っており、教育・研究、組織運営並びに施設・設備等の総合的な状況に対する評価機能の一部を担っている。また、K T C 教育評価委員会は、平成 15 年度より K T C 授業アンケート及び K T C 総合アンケートを実施し、学生、卒業生、関連企業、教職員から、教育・研究、施設・設備や学校への要望などの多様な項目に関する意見の聴取が行われている。両アンケートについてはその内容が結果報告集としてまとめられ、教職員、学校法人関係者に公表されているが、現状では、総合的な自己点検・評価が行われるまでには至っていないことから、評価結果が具体的な管理運営の改善に結び付けられていない。十年委員会が行う学校法人全体に係る総合的な状況に対する評価については、当校の各種委員会に報告され、改善の施策が検討されるシステムが整えられており、国際コミュニケーション情報工学科の設置や夢考房の設置などの具体的な改善に結び付いている。

以上のとおり、管理運営体制及び事務組織の整備状況、外部有識者の意見の反映の状況、及び学校の総合的な状況に関する自己点検・評価の実施状況を総合的に判断すると、「基準 1 1 を満たしている」といえる。

【特に優れた点】

特になし

【改善を要する点】

特になし